D 12　身体部位項目間の関連 －ヨーロッパ人と日本人との比較－

大妻女大短大　○高部啓子　　大妻女大家政　桐原美保

目的:　近年の国際化、情報化社会への急速な変化は、既製服生産の場にも及んできている。既製服のサイズシステムに関してもＩＳＯで国際規格が生まれようとしている。また、ヨーロッパでは1992年のＥＣの統合に向けて欧州サイズの策定が進行中である。このような状況の中では、人種の違いによって平均的プロポーションが異なる集団に対して、同じサイズシステムを採用できるのかどうかを検討しておくことが必要と思われる。本研究では公表されている相関行列を用いて、サイズの基本身体部位項目（ＣＤ）設定のための身体部位項目間の関連についてヨーロッパ人と日本人との差異を検討した。

方法:　資料は、アメリカ人、イギリス人、フランス人と日本人の成人女子の平均値、標準偏差、変異係数、相関行列である。計測方法が各国でほぼ同じであり、身体形態を総合的に表すと考えられる１２項目を研究項目とした。平均的プロポーションや個体差の比較の後、相関行列から主成分分析を行い検討した。

結果:　①平均値を比較すると、ヨーロッパ人は日本人に比べて身長が高く、四肢が長く、胸囲・腰囲が大きい。特に膝の位置が高い。しかし、背丈・胴囲・下腿最大囲の差異は小さい。②個体差はヨーロッパ人で非常に大きい傾向を示す。③主成分分析の結果、各国とも固有値１以上を示すのは第２主成分までであり、第１には身体の周径を表す主成分、第２には身体の長径を表す主成分が抽出された。累積寄与率はいずれも約70％である。④これらの結果から、どの集団に於いてもＣＤとして胸囲・身長をとりあげる妥当性が示された。しかし、具体的サイズやサイズピッチについては、同じにはできないと考える。